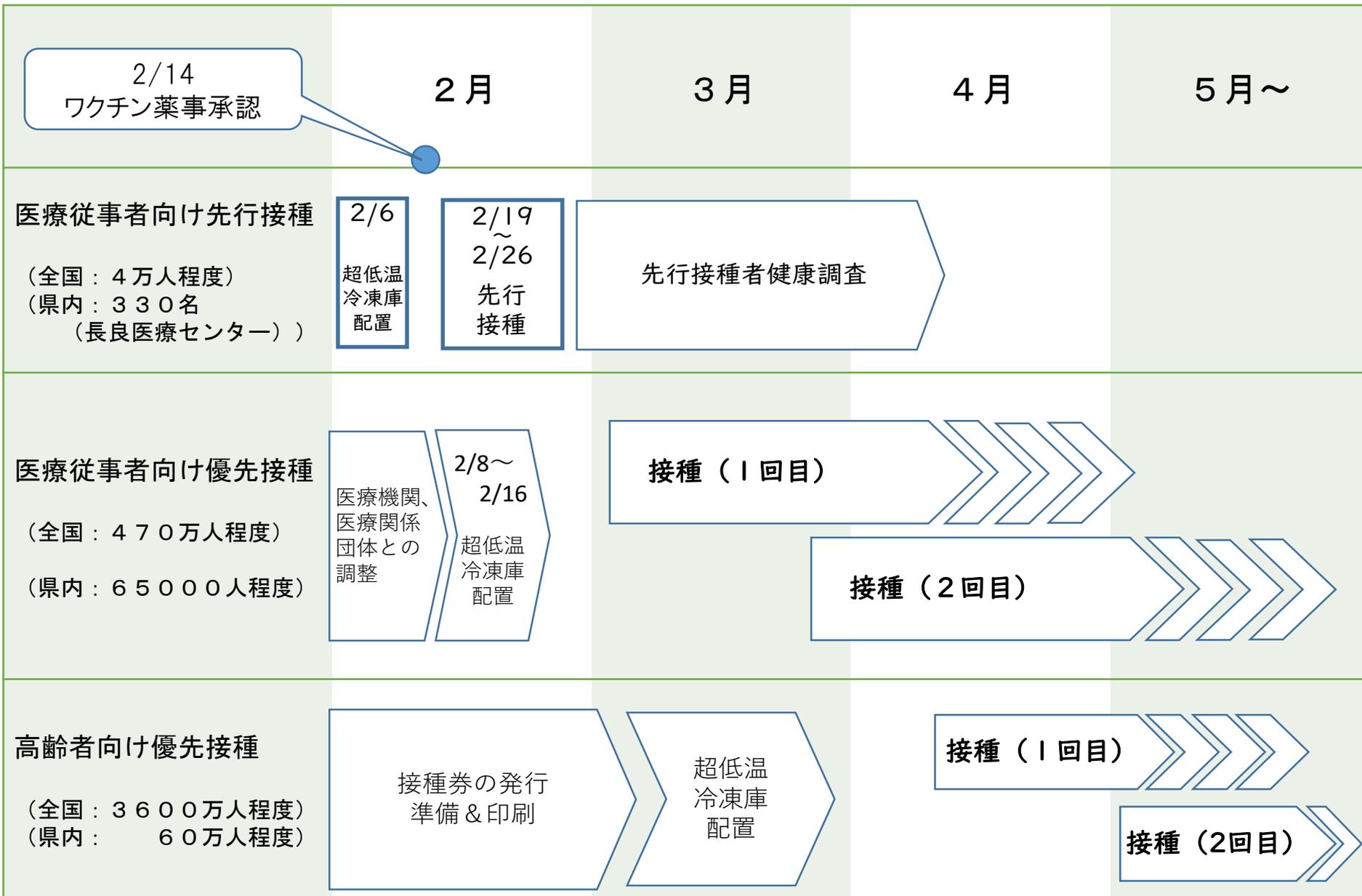


ワクチン接種 スケジュール（予定）

資料 3



ワクチン供給調整に関する基本的考え方

岐阜県新型コロナウイルス
ワクチン供給調整本部

新型コロナウイルスに係るワクチン接種は、多くの国民を対象とするものであり、いわば、史上最大のプロジェクトである。

県内では、2月19日から国立病院機構長良医療センターにおいて先行接種が始まり、3月上旬からは医療従事者等に対する優先接種、4月以降に高齢者等に対する優先接種が実施され、一般県民に対する接種に進む。

先行接種は国、それ以外の接種については市町村がそれぞれ主体として事務を実施していくものであるが、医療従事者等に対する優先接種について県が調整を担うものである。

本県の新型コロナ対策の最大の特徴である「オール岐阜」体制により、接種を希望される方々に対して遺漏なく接種が行えるよう、県、市町村、医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会その他の関係団体が緊密に連携し、体制を構築していく。

一方で、国は、ワクチンの総量確保に力を注いでいるものの、必ずしも現場で必要とする量のワクチンが適時に供給できる状況に至っていない。

そのため、国からのワクチン供給量が限られる場合は、以下の考え方をもって、県内におけるワクチン供給調整を行う。

記

- 国からのワクチン供給量が限られる場合、基本的には、感染状況や人口比などを考慮しつつ、専門的な知見を踏まえ、感染リスクを効果的に軽減する順序をもって、ワクチンの供給先を調整する。
- 医療従事者等への接種については、新型コロナ患者の受入れ実績を考慮することとする。
- 高齢者等への接種については、クラスターの予防的防止の観点から施設における従事者との同時接種を進めることとする。
- 優先接種、一般県民への接種の実施にあたっては、ワクチンに係る県民の理解を促進し、できる限り広い範囲の方々への接種に努める。その際、県内で接種の進捗に大きな差が出ないように、配慮する。

医療従事者への優先接種に関するワクチン供給方針

【基本的考え方】

医療従事者の優先接種については、公平の観点からまずは全ての基本型接種施設に原則1箱ずつワクチンを行き渡らせることを基本として、下記の考え方にに基づきワクチンを供給することとする。

- 1 基本型接種施設の医療従事者、連携型接種施設の医療従事者、それ以外の医療従事者の順でワクチンを供給する。
- 2 基本型接種施設の全ての医療従事者が接種完了後に、連携型接種施設にワクチンを供給する。連携型接種施設の全ての医療従事者が接種完了後に、それ以外の医療従事者にワクチンを供給する。
- 3 基本型接種施設へのワクチン供給については、下記の基本型接種施設の供給の考え方にに基づき、原則1箱ずつ全ての基本型接種施設に供給する。その後は全ての医療従事者が接種するまで、順次ワクチンを供給することとし、基本型接種施設の全ての医療従事者が接種を完了した段階で、ワクチンに余剰がある場合は、連携型接種施設の医療従事者分として利用できるものとする。

連携型接種施設、その他の医療従事者についてのワクチンに余剰がある場合の取扱いについても同様とする。

なお、県から医療機関へ供給するワクチン1箱あたりを487人分（1人2回接種）とする。

【基本型接種施設の医療従事者への供給の考え方（必要数：52箱）】

(1) 下記の①～⑤順により、原則1箱ずつ1巡するまで供給する。

- ①クラスターが現に発生している基本型接種施設
- ②感染症指定医療機関を含む基本型接種施設
- ③新型コロナ重症患者受入れ基本型接種施設
- ④上記を除き、新型コロナ感染症患者の受入実績の多い医療機関を含む基本型接種施設
- ⑤その他の基本型接種施設（地域における人口当たりコロナ感染者数の多い順）

(2) 2箱目以降は、新型コロナ感染症患者の受入実績の多い順に、ワクチン接種希望者の数に達するまで原則1箱ずつ供給する。

【連携型接種施設の医療従事者への供給の考え方（必要数：35箱）】

下記の順により供給する。

- (1) 新型コロナ感染症患者の受入実績の多い順に、ワクチン接種希望者の数に達するまで原則1箱ずつ供給する。
- (2) その他の連携型接種施設においては、地域における人口当たりコロナ感染者数の多い順に、ワクチン接種希望者の数に達するまで原則1箱ずつ供給する。

【基本型接種施設の医療従事者、連携型接種施設の医療従事者を除くその他の医療従事者への供給の考え方（59箱）】

市町村における人口当たりコロナ感染者数の多い順に、ワクチン接種希望者数に応じて供給する。

【ワクチンの供給単位】

- 供給単位 : 1箱 (195バイアル: 最小流通単位)
- 1バイアル: 5回接種分
- 1箱 (195バイアル=975回分): 487人分

【必要となるワクチンの量】

- 必要箱数: 146箱 (142, 350回分: 71, 175人分)
 - ・ 基本型連携施設の従事者: 52箱
 - ・ 連携型接種施設の従事者: 35箱
 - ・ その他の医療従事者: 59箱

長良医療センターにおける先行接種について

1 接種日及び被接種者数

接種日時	被接種者数
2月19日(金) 14:00～15:00	66名
2月22日(月) 14:00～16:00	108名
2月24日(水) 14:00～16:00	84名
2月26日(金) 14:00～終了まで	72名
合計	330名

※被接種者(330名)の内訳：医師27名、看護師211名、
その他(薬剤師・技師・事務など)92名

※1時間あたり30名接種を2クール体制で実施

2 接種体制

○1クールの人員

医師1名・薬剤師1名・看護師2名・事務職員2名(計6名)

○役割分担

【受付】事務職員：1名

【予診】医師：1名

【接種】看護師：1名

【接種補助】事務職員：1名

【薬剤充填】薬剤師：1名

【経過観察】看護師：1名

○実施体制：2クール

3 接種場所

長良医療センター 3階 地域医療連携会議室

4 先行接種調査の概要

- ・ 1回目の接種から、7週間後までの症状・疾病に関する調査を実施し、結果を公表

5 その他

- ・ 今後、長良医療センターにおいて163名が優先接種を実施

長良医療センターでの先行接種

先行接種の概要

スケジュール

希望者
330名(※)
(全体560名)

2/6
D F
配置

接種
体制
確保

2/14
薬事
承認

ワク
チン
納品

先行接種開始

2/19
66名

2/22
108名

2/24
84名

2/26
72名

研修

※医師27名、看護師211名、その他(薬剤師・技師等)92名

接種体制

受付

事務

予診

医師

接種

看護師

接種補助

事務

薬剤充填

薬剤師

経過観察

看護師

終了

※2レーンで実施

先行接種の検証・活用(案)

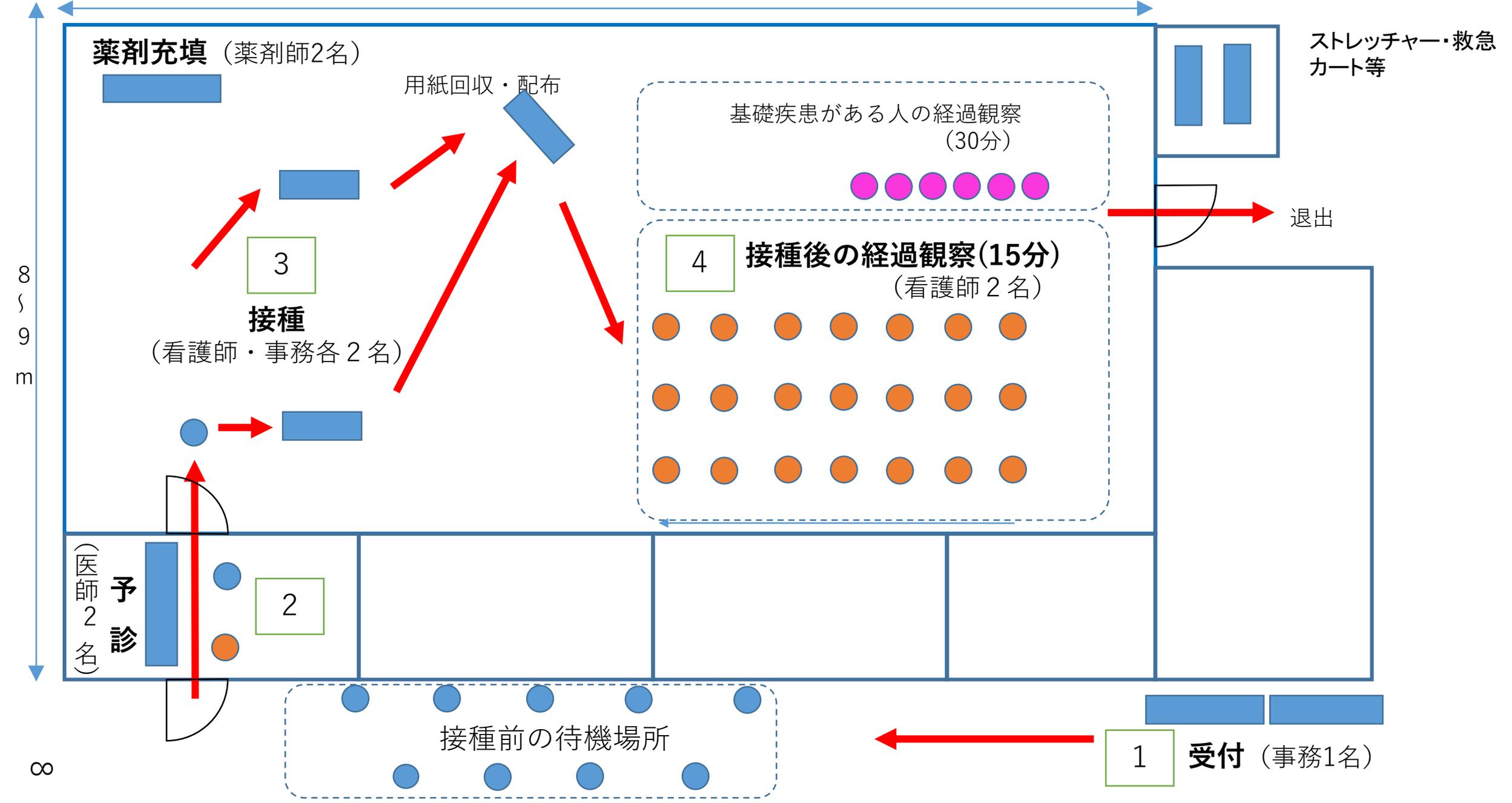
- 長良医療センター協力のもと、ワクチンの管理・希釈方法などについて、長良医療センター関係者、専門家による解説動画を作成し、一般向け接種へ向けた関係者の研修において活用する。

【解説動画の内容】

- 予診票の確認、予診、接種(D Fからワクチンの取出、希釈、充填等含む)、接種後の観察など

接種会場の状況(配置)

12~13m



接種会場の状況(写真) 【受付～予診】



【受付】



【接種前の待機】



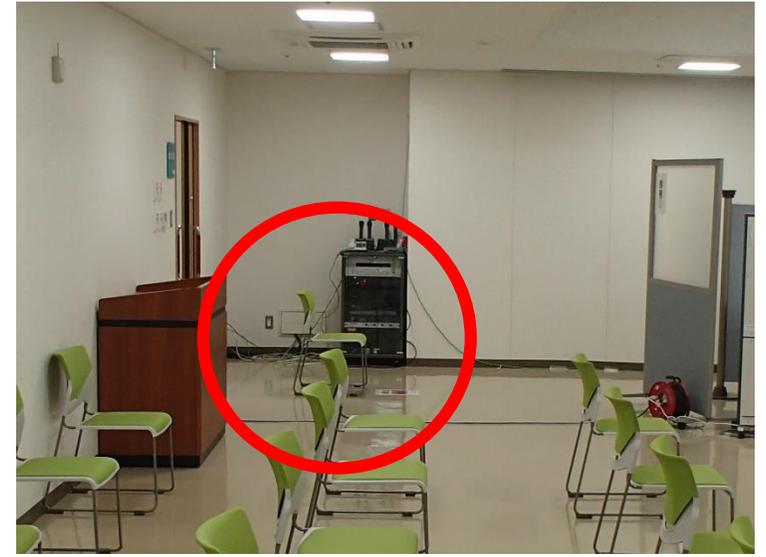
【入口の案内】



【予診】



【予診準備】



【接種前の待機用の椅子】

接種会場の状況(写真) 【接種前準備】



【冷凍庫からワクチンの取り出し】



【冷蔵庫に保管】



【冷蔵庫で保管し約1時間で融解したワクチン】



【生理食塩水、ワクチン、
接種用シリンジ・針】



【1バイアル6回採取可能な接種用シリンジ（左）
と希釈用シリンジ（右）】



【希釈したワクチンを注射器で吸引】

ワクチン接種フロー



ブース(対応)	受付(事務)	問診室(医師)	接種(医師or看護師)	予診票・問診票回収(事務)	接種後待機・観察(看護師)	出口(事務)
各ブースでの 行動・注意点	 <ul style="list-style-type: none"> 来場確認 同意書確認 問診票確認 予診票確認 <p>※来場者を名簿にチェックする ※記入漏れがないか確認する ※同意書はDr印があるか確認 ※予診票に年齢・体温が記載されているか確認 ※問診票に必要事項が記載されているか確認</p> <p style="text-align: center;">同意書回収</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 接種可能か判断 予診票にサイン <p>※項目確認後、サインした予診票を接種者へ渡す ※観察が30分必要な場合「30分観察」のカードを渡す</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ワクチン接種（筋注）実施 <p>※一人毎に手袋交換し手指衛生を実施する ※予診票と本人確認する ※迷走神経反射に注意</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 問診票・予診票の回収 必要書類を渡す (接種記録・観察用紙の記入説明・接種後の注意) 必要事項の記入（接種時間・接種部位） <p>※接種記録に接種時間を記入し接種者へ渡す ※問診票に接種部位「左右」の記入し回収する ※待ち時間に説明用紙を読むよう説明する</p> <p style="text-align: center;">予診票・問診票の回収</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 座席の誘導 状態の観察 体調不良者の対応 退出時間の確認 <p>※座席は順番に座れるよう誘導する ※体調不良者を観察室へ誘導する ※観察室での対応 ※エマージェンシー対応 ※必要に応じて接種者と交代</p>	 <ul style="list-style-type: none"> 接種後の観察に必要な物品の配布 (健康観察日誌①②、体温計、定規) <p>※「30分観察」のカードを回収し、アルコール消毒し問診へ返却</p>
必要物品 各ブース手指消毒用 アルコール必須	<ul style="list-style-type: none"> 回収箱 筆記用具 	<ul style="list-style-type: none"> 「30分」カード 閲覧用ワクチン接種の説明用紙（製薬会社からのもの） 	<p>※筋肉注射に必要な物品</p> <ul style="list-style-type: none"> 酒精綿 プラットパン 手袋 針捨てBOX ゴミ袋 ゴミ箱 	<ul style="list-style-type: none"> 用紙の回収箱 配布に必要な書類 		<ul style="list-style-type: none"> 観察に必要な物品 カード回収箱 除菌クロス

コントローラー

会場全体の統括 接種がスムーズに行えるように采配

※会場準備・設営⇒救急カートを薬剤部より移動、物品管理（補充・点検）、配置確認など事前準備、片付け

※各ブースの状況を把握する⇒物品の補充、人員の采配…必要時には病棟師長などに調整をかける

※エマージェンシー対応時にはコードブルー（9*）コールと采配

エマージェンシー対応

※初期対応は、会場にいる医師・看護師で対応⇒速やかにコードブルーコールで人の確保

※病棟からはコードブルーコールにて来場し対応する⇒入院必要であれば中央2階で対応

※接種会場では対応困難時には速やかに救急外来、病棟へ搬送

救急室



<必要物品> 緊急時に対応できる物品・感染予防に必要な物品の配備

- ・ストレッチャー
- ・緊急カート
- ・診断図モニター類
- ・SPO2モニター
- ・血圧系
- ・聴診器
- ・酸素ボンベ
- ・吸引機
- ・点滴架台
- ・ディスプレイ
- ・ガーぐるベースン
- ・PPE
- ・手指消毒アルコール
- ・除菌クロス
- ・ゴミ箱
- ・ゴミ袋
- ・ハザードBOX

観察室



<必要物品> 経過観察用

- ・ベッド
- ・VS測定に必要な物品は救護室より使用